

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人にじの会 にじアート放課後等デイサービス (にじアート児童デイサービス)				公表日	2026年3月5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2	・基本的に使用している部屋は利用児童構成によっては、手狭になる時があるが、同フロアに活動利用できる部屋が3部屋あり、活動内容や状況により、適宜活用している。 ・体調不良者が発生した際は、同館別フロアを利用する等、感染症対策も行っている。	・基本的に使用している放課後等デイサービス用の部屋のテーブルや個別コンテナ等の配置は今後も工夫が必要と思われる部分がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・職員に欠員が発生した場合や、活動内容、児童の状況により、同施設内の生活介護事業所職員が支援に入る体制を整えている。	・利用児童構成や活動内容により、法人内その他施設の職員応援が必要になる場合がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	・活動内容や目的に合わせて、3部屋及び同フロアを工夫して使用している為、その日のスケジュールや過ごし方が、こども達にもわかりやすくなっている。	・生活介護事業との多機能事業所の為、手すりの高さ等、一部児童の環境としては適切ではないところがある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	・日々の基本清掃、消毒等の感染症対策だけではなく、外部清掃業者による定期清掃も行っている。 ・活動内容や児童の状況に合わせて、マットを敷いたり、テーブルの移動等を行い環境調整をしている。	・学校休校日の日中支援期間は、生活介護事業所と活動スペースの調整を行う必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	・児童の疲労状況や情緒面で、必要に応じて個別に過ごせる部屋やスペースを提供している。 ・児童の個別の意思表示や意思決定によっても、個別で過ごせる環境も提供している。	・多機能事業所の為、生活介護事業と併用のスペースも有り、状況により調整が必要な場合がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	・設問②～③の機会、及び定例会議の機会に振り返りを行っている。	・時間をかけた丁寧な振り返りや全体周知の時間を設定し難い状況がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・「放課後等デイサービス評価表」以外にも、利用契約更新時や施設家族連絡会等の機会に保護者の意向や要望等を把握する機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・日常的に相談、意見等を話せる場以外に、年1回は法人が全職員の意見等を把握する面談の機会があり、業務改善に繋がっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	・法人として年1回第三者評価が入り、事業所として評価、改善の機会がある。	・法人として第三者評価を受ける為、生活介護事業所中心の評価内容になる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・法人内研修、及び外部研修の機会が多く設定されている。	・業務の都合上、参加の機会の確保が難しい場合がある。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・法人ホームページ上に公開している。	・利用児保護者、及び利用を検討している保護者に関覧していただくための、周知に工夫が必要と思われる事例がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・年2回の個別支援計画の策定以外に、必要に応じて、個別支援計画の内容を見直し作成する。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・個別支援計画案を基に支援者全員でケース会議を実施し内容検討を行い、ご家族との面談後、承諾を得た個別支援計画内容を支援者全員で共有している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・個別支援計画は児童一人ひとりの個別ファイルでいつでも閲覧可能になっている。 ・設問②～③の機会、及び記録を通して支援内容、状況の確認共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・特に、全職員のインフォーマルなアセスメントを重視し、行動観察力の向上に働きかけている。	・標準化ツールの設定を試行中。現在は活動ツールを使用し、フォーマルアセスメントを行っている。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・個別支援計画に反映、表記し、支援内容をご家族に説明している。	・移行支援については、各児童の学年により、内容差が発生する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・基本的な活動プログラムを月案作成、各週毎にリーダーを設定し週間プログラムを策定、活動毎のリーダーを設定し活動実施案を作成し、チームでプログラムの立案を行っている。	・基本活動の種類、多様さの見直しが定期的に必要な。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・設問④の通り、固定化しない工夫と、利用児童の状況や構成等により、臨機応変に活動内容を変更することもある。	・設問④同様、活動の種類、多様さの改善は必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・下校時間の違いにより、同日でも利用児童の構成が変わる為、状況に合わせて、個別・集団の活動を設定している。	・利用児童の年齢層が幅広い為、集団活動内容に工夫が必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・出勤後に、前日の振り返りと当日の確認、情報共有等を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		・利用児童帰宅後に打合せ、振り返り、情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・業務日誌の他、報告書、特記については法人オンライン等に記録している。 ・状況により、防犯カメラの映像を確認し、支援の検証、改善を行っている。	・記録の記述方法の標準化を試行中。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	・設問④同様、ご家族から要望があった場合も、個別支援計画の見直しを行っている。	・実質的には、年2回の個別支援計画の見直し以外の見直しの機会は稀である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		・意思決定支援も含め、「4つの基本活動」を組み合わせ支援を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・「意思形成」を時間をかけて構築することと「意思実現」の中で「未達成（非実現）」の過程を丁寧に支援することを意識している。	・「意思表明」は個々の特性や発達過程で個性が高い為、ツールや表出方法等の試行が必要。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・児童発達支援管理責任者、及び個別の支援担当者が出席している。状況により両名で参画する場合もある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		・ご家族からの要望や必要に応じて、通院同行や子ども家庭支援センター等の関連機関との連携支援体制は整っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・日常的な学校送迎時の申し送り、学校主催の事業所連絡会、事業所訪問による情報共有、個別の担当者会議等に参加している。	・全利用児童の事業所訪問を設定したいが、物理的に難しい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・必要に応じて、情報共有を行い支援に活かしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	・要請に応じて、情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	・センター主催の事業所連絡会、及び研修に参加している。 ・必要に応じて、児童個別に情報共有等を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	6	・地域の公園利用や図書館のおはなし会に参加する等で地域のこどもの交流の機会を設定している。	・保護者により、インクルーシブについての要望に差異がある為、より良い交流方法を模索中。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		・事例検討会等の研修に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・連絡帳、送迎時に情報共有を行い、必要に応じて、メールや電話等で共通理解に努めている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	・施設家族連絡会を通じた情報提供や家族向け外部研修の情報発信を行っている。	・個別相談での、家族支援を実施するケースはあるが、「ペアレント・トレーニング」等の研修実施の機会設定は難しい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・利用契約時に実施している。必要に応じて、契約更新時等にも説明を行う場合がある。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・個別支援計画案は、子ども自身の意向や家族の意向を反映させて策定し、面談時に意向を再確認し作成する。	・言語表出の難しい児童に対して、本人の意向を確認することが難しい為、設問⑨同様、各支援者の行動観察力向上が必要。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・個別支援計画の策定時に、保護者と面談を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・ご家族の要望に応じて、面談や専門家との相談の機会を設定している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6		・年3回、施設家族連絡会を開催し、保護者間の情報共有や交流の機会を設定している。	・きょうだい交流は未実施。個別支援の実施や、利用児童との活動参加の機軸は、要望に応じて設定している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・重要事項説明書内に苦情等の受付について表記、説明を行っている。また、職員に直接相談やご意見等が寄せられた場合は、速やかに上長に報告し対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		・毎月「デイだより」を発行している。 ・年3回施設家族連絡会を開催し、参加できなかったご家族も資料を通じて同様の情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・契約時及び、契約更新時に個人情報と肖像権について、家族の希望と承諾を得ている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・個別に配慮し、対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	・「にじの会まつり」等、法人行事を地域開放している。 ・コロナ以前は、地域の方々の活動体験参加の機会も設定していた。	・感染症対策を行い、地域の流行状況を判断しながら、徐々に活動体験参加も再開する予定。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	・マニュアルの作成、避難訓練等、法令に則り実施している。	・放課後等デイサービス独自の対応フロー等が一部必要と思われる。 ・避難訓練の実施状況など、ご家族への周知方法に検討が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・BCPの策定、定期的な訓練を実施している。	・多機能事業所の為、生活介護事業と一緒に実施する為、放課後等デイサービス単体の訓練等も検討が必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		・通所開始前のインテーク面談、アセスメント表等で基本事項の確認を行っている。 ・必要に応じて、学校提出の医療状況も共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・設問⑨同様。必要に応じて、事業所でエビベンを預かっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		・年1回、法人で安全大会研修を行い、安全管理に関連する研修を実施。 ・法人設備担当が定期的に事業所の安全点検を行い修理等が必要な場合に対応している。 ・定期的に外部業者によるエレベーターや火災報知器等の設備点検を実施。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			
----	--	---	--	--	--